

『見守りタッチ』システム普及事業



～ICカード活用への取り組みについて～

 福岡市交通局



平成22年10月28日

総務部営業課 係長
電子マネー等担当
安谷 幸司（やすたに こうじ）

イメージ詳細図



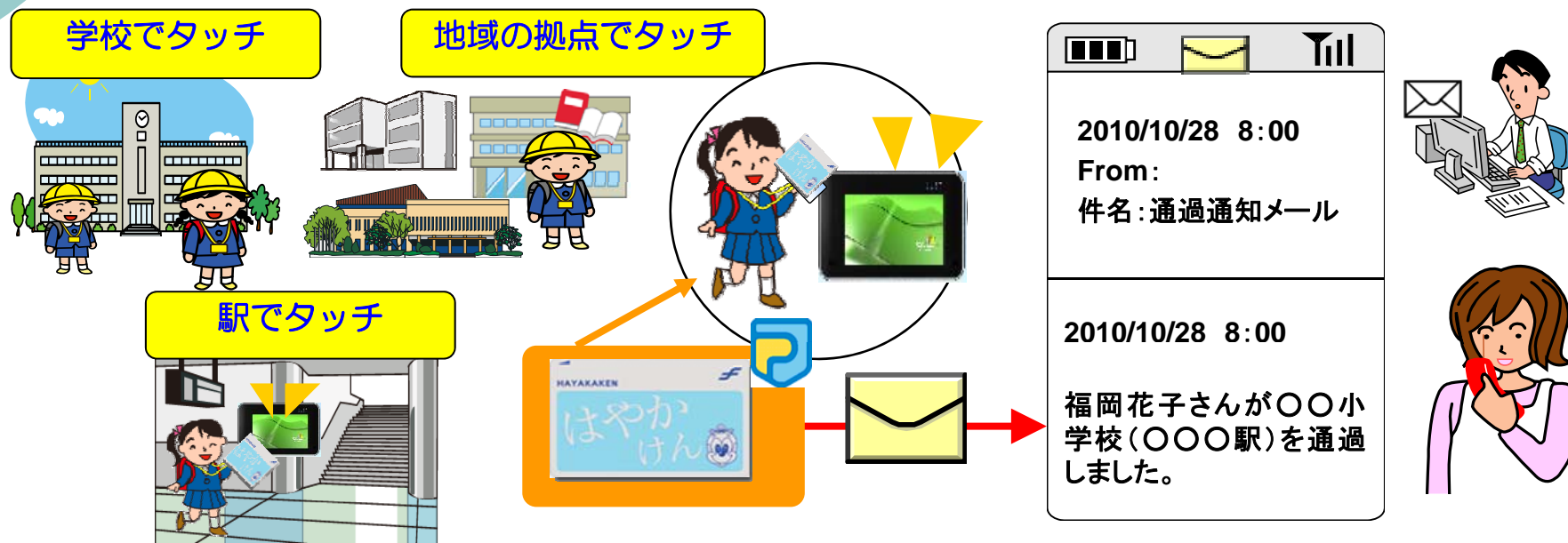
実施団体名	運営主体（予定）	実利活用分野	主なシステム機器等
福岡市	「見守りタッチ」運営事務局	児童見守り	フェリカポケット(ICカードはやかけん)

事業概要

登下校時に駅を利用する際、また地域の小学校などで、児童が所持するICカード(「はやかけん」)を読取端末にタッチすることにより、保護者に児童の登下校等の時刻がメール配信されるシステム。

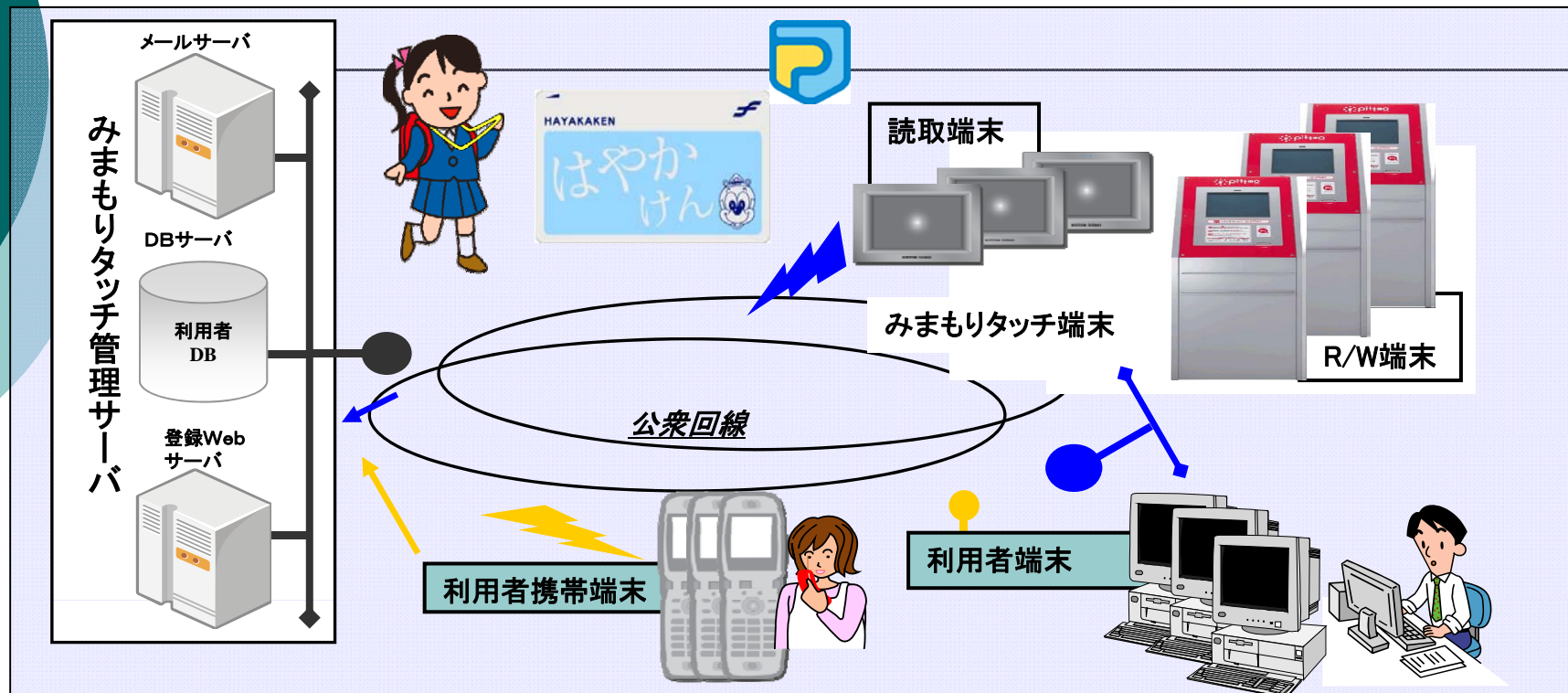
期待される効果

全国的に児童の犯罪被害事件が増加し、児童の携帯電話所持による様々な弊害が問題となるなか、保護者に安心を届けることができ、地域の拠点を中心とした「安心・安全」の実現が可能となる。



※ 平成21年度地域情報通信技術利活用推進交付金交付申請資料(1/2)

情報通信システム構成図



■みまもりタッチ端末

- ① 読取端末: 児童が所持する「はやかけん」をタッチすることにより保護者に児童の登下校時刻がメール配信される。
- ② R/W端末: みまもりタッチシステムに「はやかけん」を新規登録する機能を持つ。

■みまもりタッチ管理サーバ

- ① 登録情報・メール配信・状態確認機能等を管理し配信する。
- ② メール配信機能に加え、保護者の電話等による問い合わせに対する学校の利用者端末からWebにより状況確認が可能。

機器設置状況①

○ 地下鉄唐人町駅改札内コンコース



機器設置状況②



○ 箱崎小学校生徒昇降口



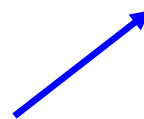
機器設置状況②



○ 端末の画面動作



初期画面



(画面にタッチ)



(タッチ完了)

機器利用状況

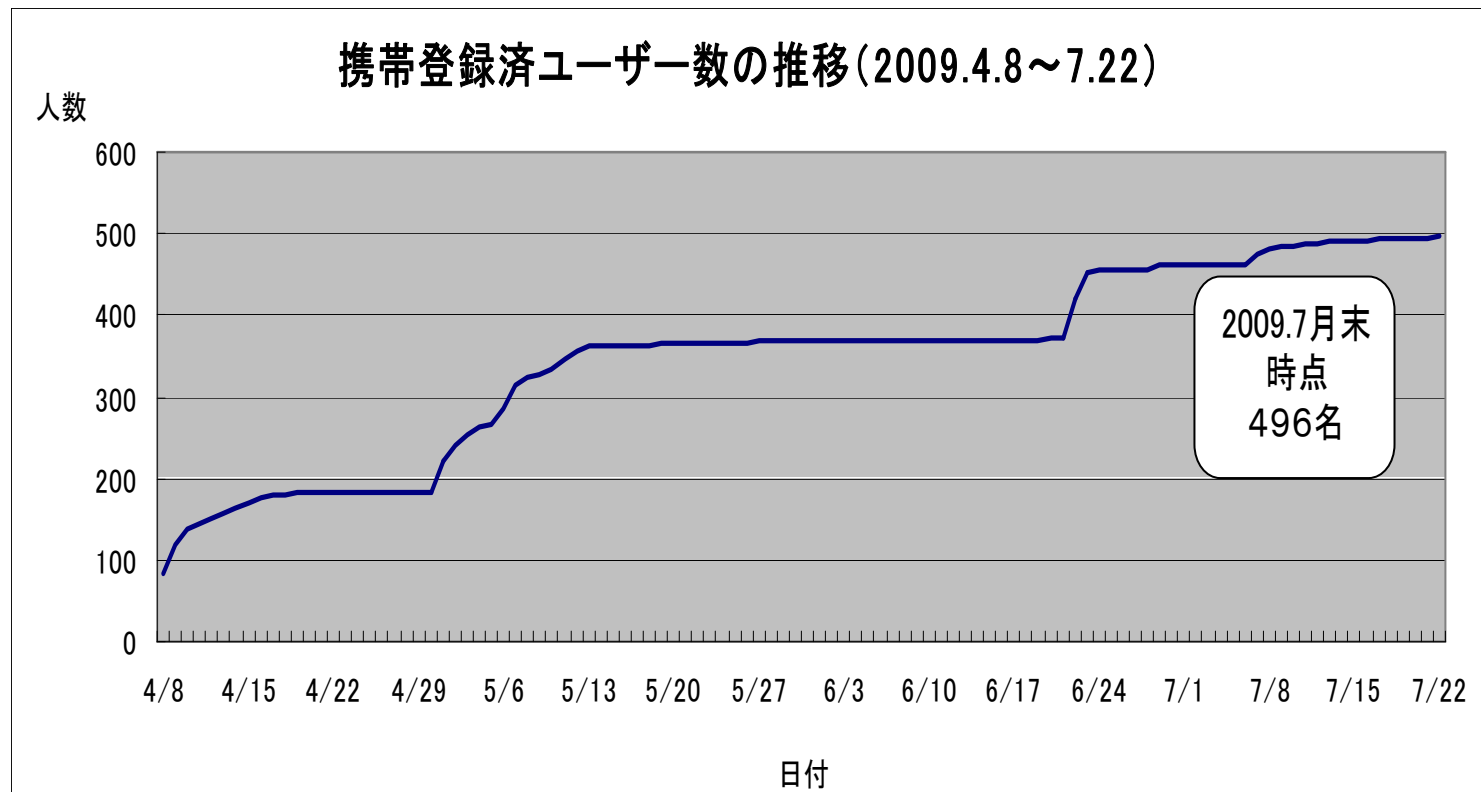
- 箱崎小学校生徒昇降口



モニター試験実施状況



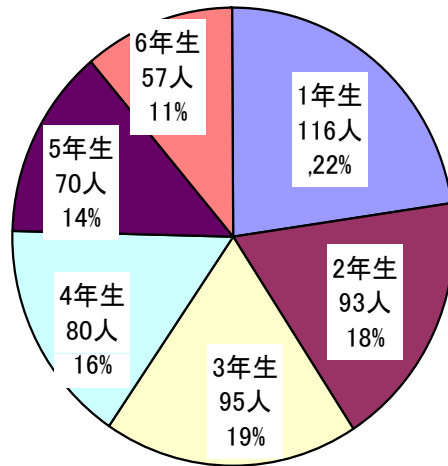
昨年実施した附属小学校・箱崎小学校でのモニター試験状況



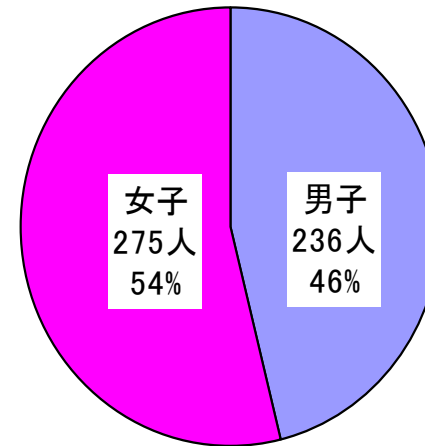
※ モニター試験開始日:附属小学校(4/8), 箱崎小学校(5/13)

試験利用状況①

モニタ児童構成比



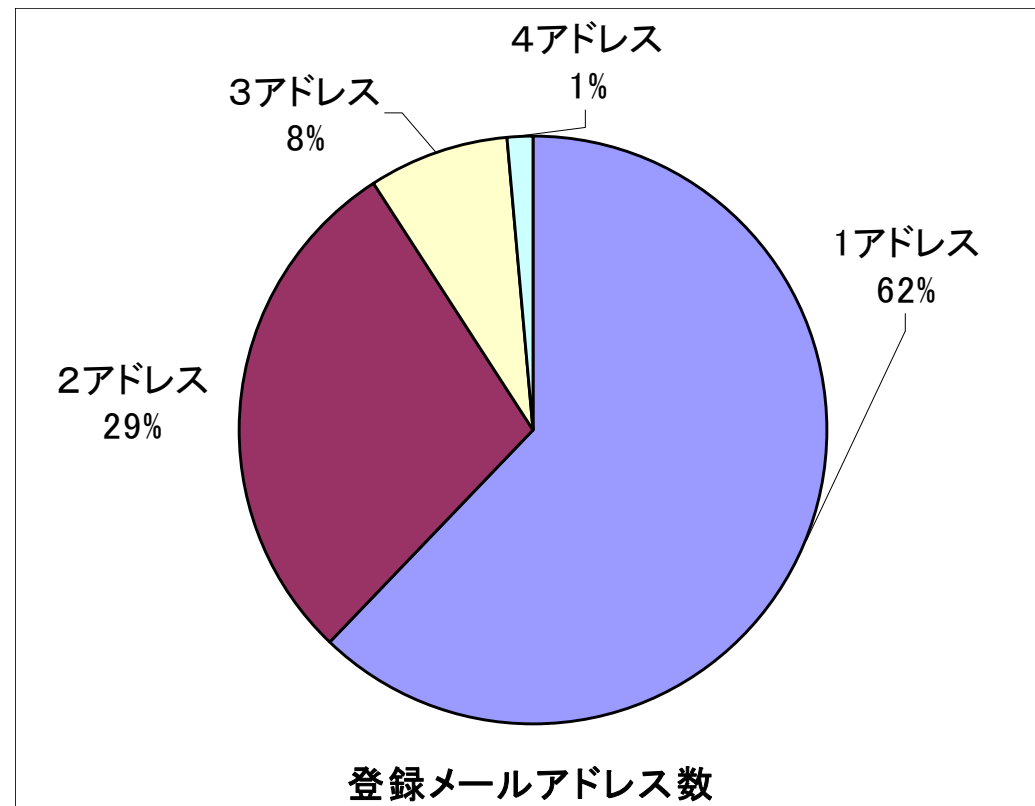
学年別利用状況



モニタ生徒男女比

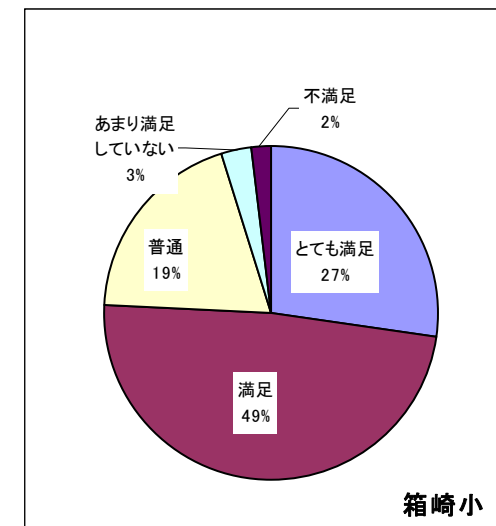
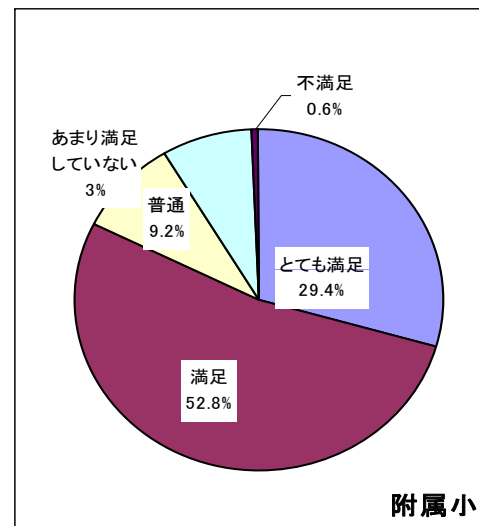
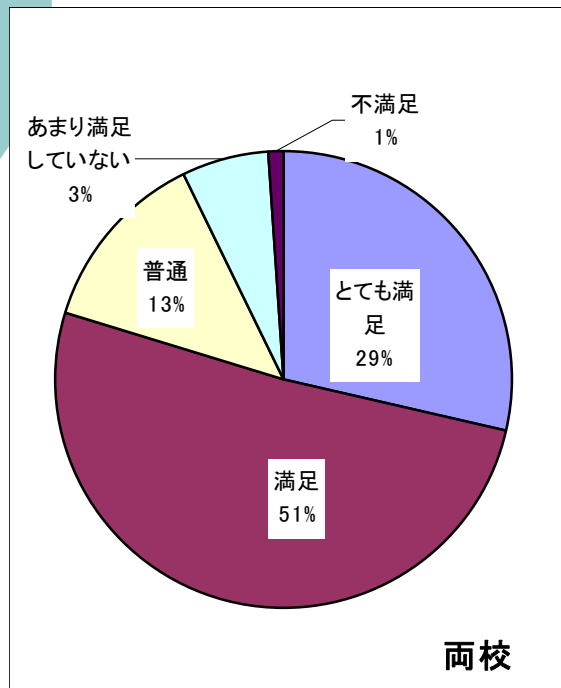
試験利用状況②

配信用登録メールアドレス数



アンケート結果①

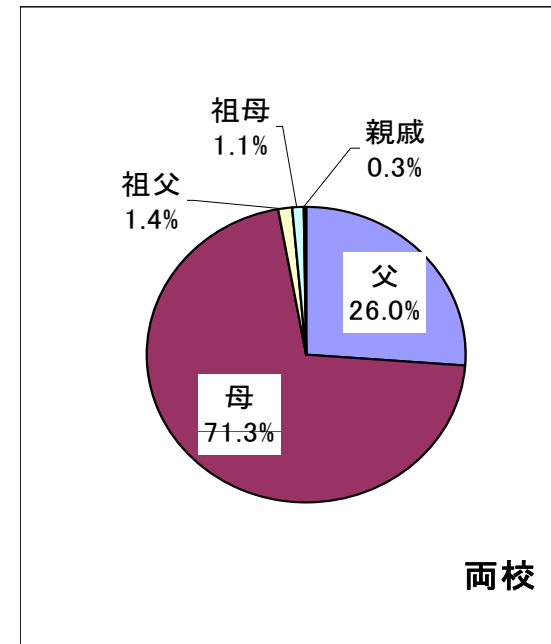
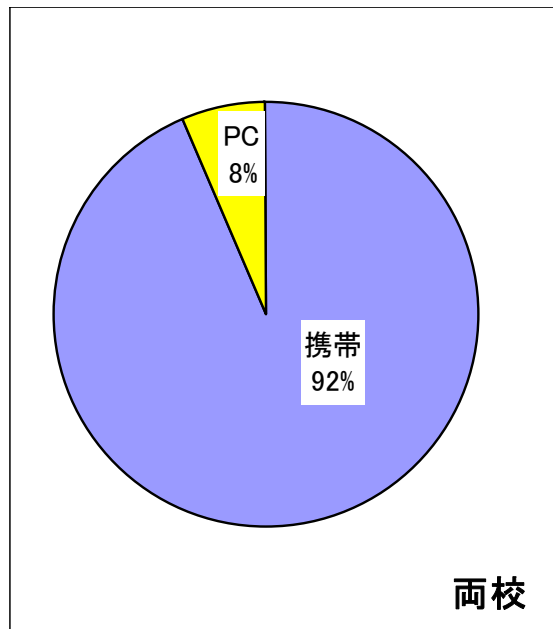
○みまもりタッチに対する満足度は？



※ 約8割が満足している。

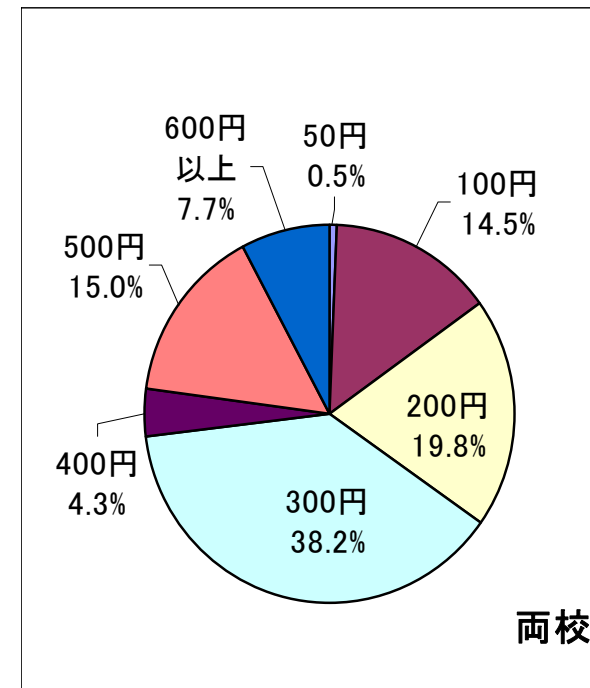
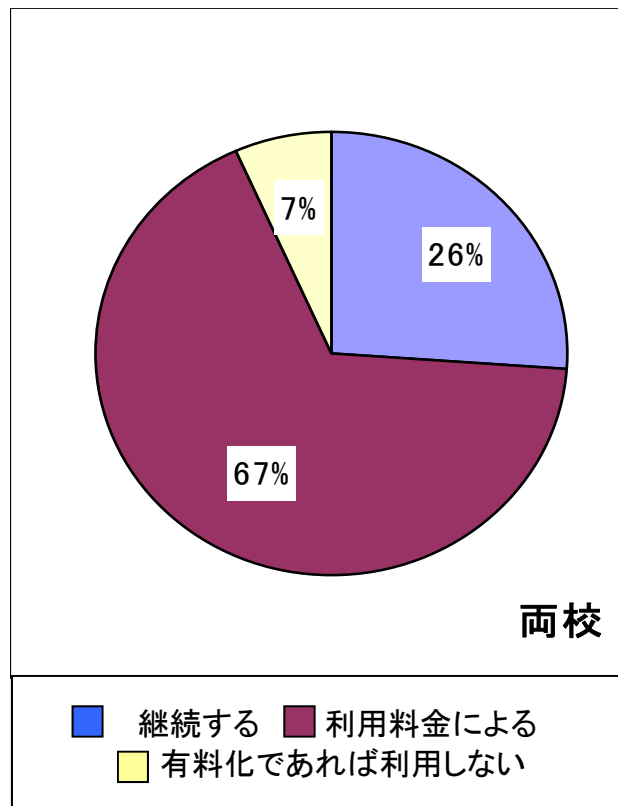
アンケート結果②

- 配信メールは携帯とPCのどちらで受信したい？
- メールを受信するアドレスの持ち主は？



アンケート結果③

- 見守りタッチが有料化であれば利用を続けますか？
- 見守りタッチの適正な利用月額額は？



アンケート結果④

- 今後学校以外にみまもりタッチ端末機をどこに設置して欲しいですか？（複数回答）

順位	施設名	回答数
1位	塾など習い事の施設	128
2位	駅（地下鉄以外の西鉄、JR含む）	111
3位	バス停	103
4位	図書館	41
5位	自宅	32
6位	プール施設	26
7位	コンビニ	18

※ その他意見： 留守家庭子供会、公園、デパートや天神地下街、通学路

現在の利用状況①

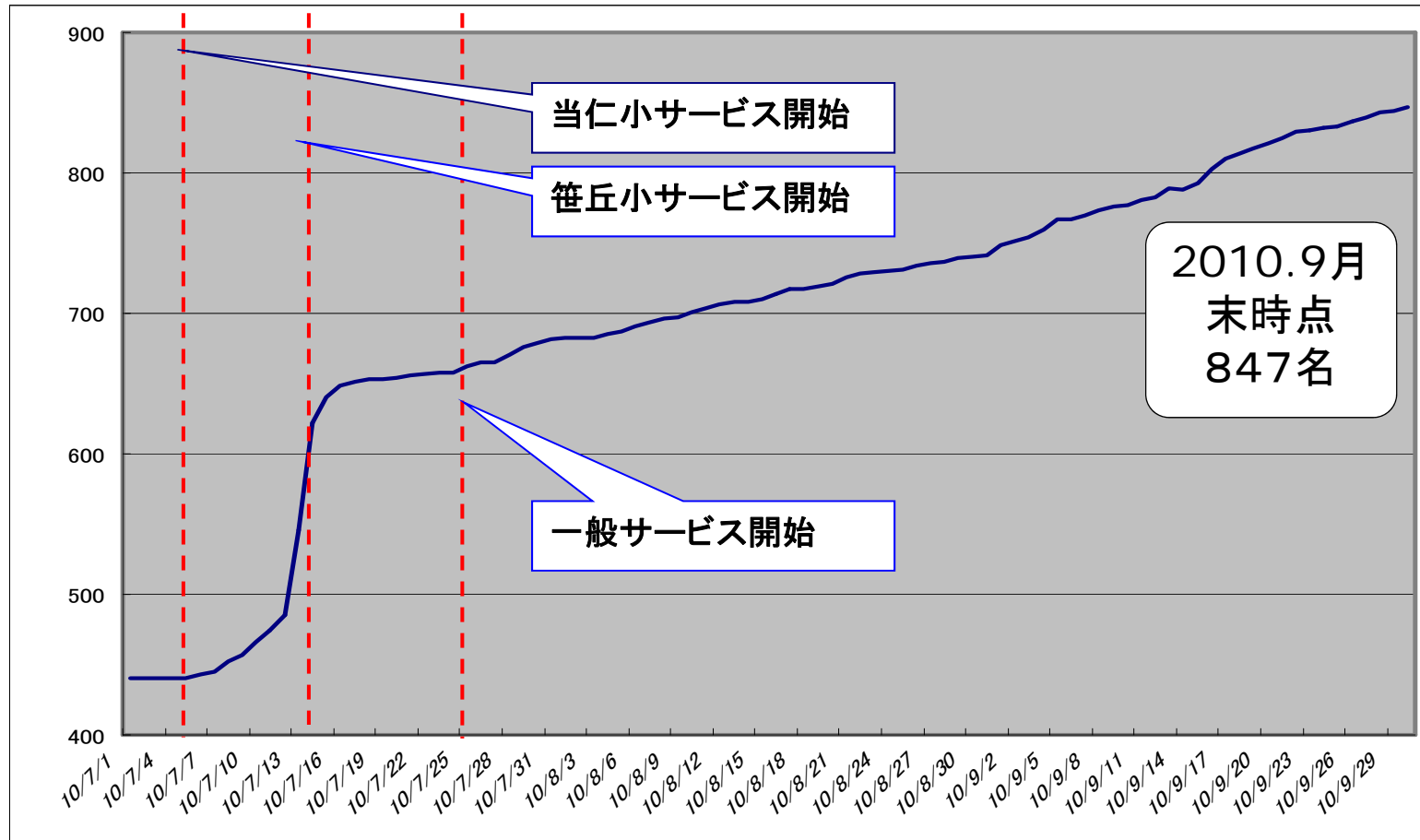
7月22日プレスリリース資料

登下校等時刻メール配信サービス
「みまもりタッチ」サービスを開始します！
(地下鉄全駅・市民プール等で実施)

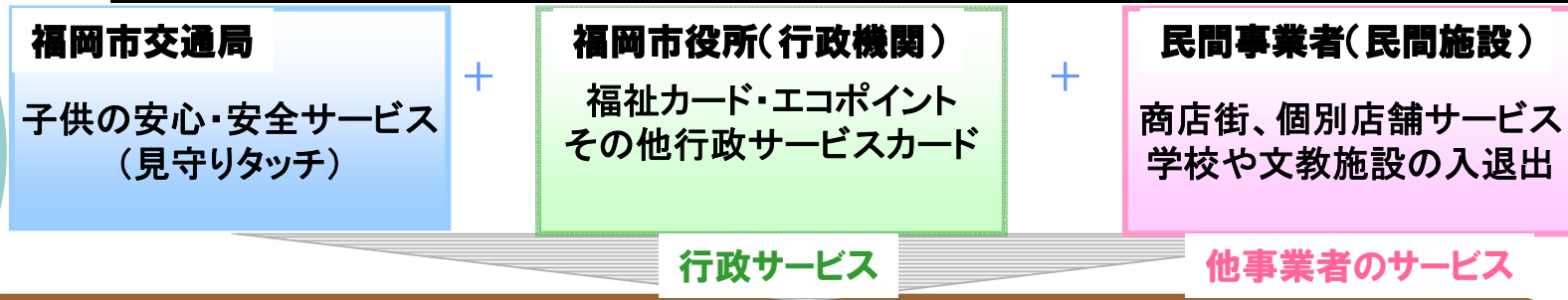
交通局では、「はやかけん」の幅広い分野での活用を目指し、同カードに搭載されている「FeliCa（フェリカ）ポケット」機能を活用した「みまもりタッチ（登下校等時刻メール配信サービス）」のモニター試験を昨年から実施しておりましたが、この度、7月27日（火）から地下鉄全駅（全改札口）、各区市民プール、福岡市総合図書館等でサービスを開始します。

現在の利用状況②

登録者数推移 (2010. 7/1~9/30)



「福岡市民カード」構想



「福岡市民カード」



イメージ

行政プランの提言

行政効率の向上・高度化を図り、かつ現サービスの活性化・向上を実現

■ 集計業務の簡素化

紙ベースの配布は、清算時も利用情報を手処理している。「ICカード化」により、利用情報を端末に収集し清算処理ができる。

■ 業務受託者の一本化

利用情報を端末に収集し清算処理が可能となることから、異なる事業者に管理委託する必要がなくなる。

行政効率化

■ 利用情報の定量化

「誰」が「どこで」「どんな」サービスを利用したか、リアルタイムで集計・分析できるようになり、実績を、定量的に把握することができる。

■ 報告内容の正確化

紙管理による誤報告や虚偽報告、第三者による券の偽造を防ぐことができる。

行政高度化

■ 「行政サービスはこれ1枚」の便利さ

行政サービスを1枚のカードの収め携帯してもらえれば利用率もアップ。

利用率が上がれば認知度も上がり、対象施設が更に増加するなど、サービス向上の相乗効果生まれる。

サービス活性化

■ 多機能ICカード化

IC交通乗車券と合体することで、更に利用頻度の高いカードとなる。

サービス自体を利用しなくなったとしても、乗車券や電子マネーとして利用し続けることができるため無駄が少ない。

サービスレベルの向上